

## アマダイ通信NO.58

(Tile fish network letter)

07年元旦

### 知人・友人各位

明けましておめでとうございます。21世紀も7回目の新年を迎えましたが、20世紀と変わらず、世界は戦争とテロに明け暮れています。貧困と格差に起因する暴力に対し、暴力を持って対峙、自らの主張を暴力によって強制しようと、泥沼に陥る超大国。他方、経済のグローバル化は、フラットな世界を目指すインターナショナリズムですが、格差を拡大することで、ナショナリズムに反撃されます。インターナショナリズムとナショナリズムの相克と調和の果てに、自由と平和の21世紀を展望する年に、2007年はなりうるのでしょうか？

### ◎命ある限り、地の果てまでも？・・・いざ、「アフリカ」へ！

アフリカと言われてまず思い浮かべるのは、広大なサハラ砂漠以南のブラックアフリカだ。エジプトもアフリカだと言うと、えっ？と思う人が多いかもしれないが、スエズ運河を挟み、シナイ半島以西のエジプトはアフリカだ。チュニジア、アルジェリア、モロッコ等、サハラ砂漠の北の諸国は北アフリカということになる。沿海部を緑豊かな穀倉にする、大西洋や地中海からの湿った風が、サハラの北に位置するアトラス山脈を越えると、空気は乾き、不毛な砂漠をつくる。サハラ砂漠にかけて住む北アフリカ原住のベルベル人の肌は黒いが、沿海部中心に多数を占めるアラブ人の肌は褐色だ。エジプト、チュニジア、モロッコと、北アフリカには足を運んだが、何故カリビヤやアルジェリアツアーは目につかない。かつて名画「アルジェの戦い」に胸躍らせ、胸締め付けられた「革命少年」としては、アルジェのカスバも探索したいが、ブラックアフリカにも行ってみたい。「命ある限り、地の果てまでも！」、己を世界の中心に置いた、どこかの国と同じ、身勝手な「中華思想」だが。

幸い、三鷹寮で一年先輩で、大蔵省OBの宮村智さんがケニア大使だ。任期中に一度、と思っているところに、イオン環境財団から11月18日から25日までのケニア植樹ツアーの案内。ノーベル平和賞受賞のマータイ環境副大臣のグリーンベルト運動に協賛、ケニアに植樹するという。貧しいサハラ以南のアフリカの常として、燃料として高価な石油を買うこともままならず、薪を燃料に使う。薪や建築資材としての森林の過伐採で土地の保水力が低下、水不足が更に森林を後退させ、家畜の過放牧退耕作がそれに輪をかける。そんな悪循環に陥ったケニアでマータイさんが緑豊かな森を回復すべくグリーンベルト運動を進め、イオンが趣旨に賛同、植樹ツアーを募る。普通のバックツアーで行くより、数段面白い。今回も幹線道路から未舗装の山道を分け入る。折からの雨でぬかるむ岩だらけの深い谷沿いの道を、雪道をノーマルタイヤで走るようなスリルを味わい、牛の放牧地で植樹する。文字通りサファリラリーだ。日本の四駆の性能の良さもあらためて確認。沿道では子供達が手を振り、泥んこ道で牛乳ポットを集荷するトラクター。自己満足に過ぎないのだが、植樹することで「何かいいことした気分」になれる！

ケニア行きを決めて、紀伊国屋で「アフリカ」本を探す。ようやく四冊ほど新書を発見。「アフリカで象と暮らす」を含め二冊がケニア関連。日本人にサハラ以南のアフリカは「遠い」ということか。地下鉄の駅に「ナイロビの蜂」のポスター。ネットで検索してみる。日本での人気は今一だったか、アカデミー賞受賞作だというのが、東京での上映は終わっている。原作が集英社文庫にあるというので、探し求め、上巻だけスーツケースに入れる。

### ◎ サファリには本と海パンを！

ケニアの首都ナイロビは、千七百メートルの高地にあり、常春のような気候だ。10月までが乾季で、小雨季の11月平均の最高気温が23度、最低気温が12度ほどだ。赤道から少し南の熱帯という感覚で、案内書を見て一応長袖のシャツと上着を用意したのだが、朝晩は寒い。カシミヤの薄いセーターでも持参するんだってと、反省。百メートル高くなると0.6度気温が下がるのだと、昔習ったことを思い出す。もっとも、ナイロビは治安が悪いからと、ホテルから外出禁止、国立公園のサファリロッジでは、敷地の外に出たらライオンや豹の餌食になるので出られず、実害は余りなかったが。それでも日中は気温が上がり、インド洋寄りで少し低い、アンボセリ国立公園のロッジのプールでは、リゾート気分で水泳を楽しむ。日中は動物も活動しないので、サファリはもっぱら朝と夕で、昼はロッジで本を読んだり、泳いだりして寛ぐ。

サバンナで乾燥が進むアンボセリでは動物の影が薄い。それでも灌木の間や、湿地で体を半分沈ませながら草を食んでいた数十頭の象の群れが、やがて間近かに姿を現し、アフリカの主人公は俺様だ！と言わんばかりに、サファリカーの前を悠然と横切る。ジャッカルに追われる可愛い鹿の仲間、ガゼルの群れ。時速80キロ？の快速で斜めに逃げて難を逃れたものが、何事もなかったかのように、又、草を食べ始める。ジャッカルは餌にありつけたのか？一瞬の内に、遙か遠く駆け抜けてしまい、定かではない。群れを持たない、水牛をスリムにしたような雄のヌーが一人草を食む。見るとそのヌーを風下から狙う二頭の雌ライオン。無線で連絡しあったか？続々とサファリカーが集まってくる。その様子でただならぬ気配を感じたか？ヌーが後ろを振り向く。狙うライオンは、気づかれてしまったかと、すごすご引き下がる。雌ライオン二頭ではヌーに敵わないのだという。鳩くらいの大きさのきれいな鳥が、目の前の道路を横切る。よく見ると大ムカデと格闘している。鳥が突っつく、百足は尻を持ち上げ、毒針で鳥を刺そうとする。鳥は刺されまいと後ろ向きにピョンピョン後退する。時に野次馬を気にしながらも、ようやく仕留め、餌にありつく足長の小鳥。野生の動物の生態に感動する。

ナイロビより北、大地溝帯の塩湖、ナクル湖国立公園では遠く、美しく、無数のフラミンゴが群れ、近くには大鷲や綺麗な王冠を被った冠鶴。砂が乾き草が生える岸边には水牛や犀、縞馬が群れる。イボ猪や立派な角を持った鹿の仲間インパラも可愛い。アカシアの密林ではキリンが群れて鋭い刺の生える枝についた葉っぱを食べる。雨が多く緑濃い大地溝帯のナクルは、氷河が後退し続ける6千メートル超のアフリカーの高峰、キリマンジャロの麓のアンボセリに較べ、格段に鳥獣の密度が濃い。アンボセリでは数頭の縞馬やキリンを遠目にして歓声を挙げていたのに、ここでは手の届くような距離にいくつも群れている。赤道直下にも関わらず冷涼・湿潤な高地なので、周囲が都市化、人家が密集する市街地に近いので、ナクル湖の水量減と水質悪化で、フラミンゴは激減しているとのこと。湖岸に白骨と化したフラミンゴが累々と横たわる。

### ◎ 20ドル払い遊牧の民、マサイの集落へ！

42あるケニアの部族の中で、昔ながらの遊牧生活続けるマサイ族の集落。細木の骨組みと牛糞塗りの壁、椰子の葉葺の屋根。葉の下に敷く防水シート代わりの薄いビニールが現代的。腰を屈め、狭く扉もない2Kの家に入る。真中にアカシアの木を擦り発火した種火を燃やす竈、壁に小さな灯取り穴。両脇に黒光りする牛の皮を敷いた小さな灯穴付きの小寝室。入り口に小さな家畜部屋。子羊などが休む。猛獣避けの、棘だらけのアカシアの枝の柵の内側に小さな家が円弧を描いて並び、中庭は夜、牛、山羊、羊と、「マサイの自家用車」と他部族が邪喻するロバの寝床だ。

一夫多妻、5 家族 150 人の集落の前で首と腕飾り、赤、青、紫の鮮やかな衣装を纏った男女の集団が並び、男達はぴょんぴょん跳ねるマサイダンスで、女達は歌で陽気に迎えてくれる。食料と衣服、敷物、布団にもなる家畜は既に野で草を食み、可愛い子羊や子山羊と子犬が所在なげだ。家畜の血も食物とし、野菜は摂らず。成犬は牧羊犬として働く。中庭で長老が幼児を集め学校を開く。初歩的読み書きとマサイとしての生活の知恵を教えるという。今も男子は 17 才の通過儀礼で、尻尾を捕む役、とどめを刺す役等に分かれてライオンを狩り、死者も出るという。水を汲み、薪を集めるのは女子供だ。乾燥地帯のサバンナでは重労働だ。狩りを止め、家畜を追うだけになった男は一見、楽に見える。

ナイロビから同行のマサイの女性ガイドが流暢な日本語で案内してくれる。ケニアの公用語は英語とスワヒリ語と部族語だ。部族はキクユだマサイだ、メロだと、四十二ある。ノーベル平和賞受賞者マータイさんのグリーンベルト運動に協賛した今回のイオン環境財団の植樹地は、カレン族地区だ。マータイさんの英語の挨拶を現地通訳が日本語とスワヒリ語に通訳し、更に別の人間がカレン語に通訳する。多種多層の公用語を持つ国の国家としての統一、国民意思の形成の難しさが推し量られる。ガイドは隣国タンザニアの独立時、ニエレレ大統領がアフリカで広く通用するスワヒリ語を公用語としたのに対し、ケニアのケニヤッタ大統領は宗主国イギリスの英語を公用語としたので、経済が世界に開かれ、隣国より発展できたという。いずれにしろ、鍵は教育だ。

最近公教育が義務化されたようだが、授業料無料でも教材その他に現金が必要で、定住しない遊牧民の学校教育をどうするかが問題だという。観光がらみで現金収入を得たり、高等教育を受けると生活が欧化されたり、不便で不健康な村を捨てたり。伝統と近代化の角逐がみられる。原住民を排除した広大な国立公園でのサファリが、“野獣と人間の角逐”に対する一つの結論だとすれば、“人間と人間の角逐”は現在進行形だ。そして“人間と自然の角逐”も現在進行形なのだ。もっとも、自然にとって人間がどうなるかは全く関係のない話で、地球環境という自然の、極く一部に過ぎない人間が、この地球上にいつまで、どんな形で存在できるかということに過ぎない。“地球を守れ”とか、“自然を守れ！”という時の地球とか自然とかは、人間にとってのそれを言うだけだ。人間が存在しようがしまいが、どんな形で存在しようが、地球は回り続ける。43億年とも言われる地球自身の寿命がある内は。

### ◎アフリカで中国の影、中国は植民地主義？

アフリカ、中東の貧困は、いいように植民地化した欧米、わけでも英、仏、独、伊、オランダ、ベルギー、ポルトガルの責任と思いつつ、今回初めてケニアへ植樹行。緑の地球ネットワークの世話人として、黄土高原の緑化事業を手伝うと、豊かな中国になぜ植樹支援するの？と問われもするが、それと同じく、そこに困っている人がいるから。そしてそこへ行ってみたいから。

環境破壊と豊かな沿海・貧しい内陸の格差拡大という大きな矛盾を抱える中国の影がケニアでも大きい。田舎の道を走ると、ユウカリの森が所々に見える。日本のゴルフ場でよく見る、オーストラリア原産で枝ぶりもよく、大きく伸び、皮が落ちて白い木肌をさらす巨木だ。成長が早いので、製紙会社が至る所で植林しパルプにしているのだが、油分が多く、下草も生えず、アフリカに植えるのはどうかと思う。これをケニアでは電柱にするという。真直ぐ伸び、成長が早い。油分が多く腐りにくい。すぐ金になる。だが、中国がケニアにセメント工場を作って、コンクリート製の電柱作っているから、これもすぐ駄目になりますよ、とガイド。それに経済の未発達なアフリカに中国人が進出、安い中国製品を持ち込むことで、アフリカの競争力のない産業が、淘汰されているという。

北魏の都、平城京も置かれた、黄土剥き出しの地に緑を回復するため、中国政府は条件の悪い土地の耕作を止めて森に戻す、退耕還林運動を進める。耕作を止めた農民はいずれ都市に出る。膨張した都市は雇用創出のため競って工業化を進め、工場は原料とエネルギーを必要とする。中国の人口圧力と資源需要が中国人を更に外に押し出す。この夏イタリアを旅した時も、観光地で千円！千円！と、日本人に、大声でイタリアの土産物を買えと迫る中国人が多かった。今、中国のアフリカに対する攻勢は激しく、資源と見返りの中国のアフリカ支援は新植民地主義とも言われる。石油や鉱物資源獲得のため、道路や鉄道などのインフラに投資、人も中国から送り、極端な話、囚人を作業員として送り込み、タコ部屋に詰め込んで、終わると現地に放置(殖民)するとも。結果、インフラはできて現地には金も技術も残らない。

“アフリカに責任のない”日本のアフリカ支援はいかにあるべきか？宮村大使公邸での夕食会には、別の植樹プロジェクトでナイロビに滞在する植生学の宮脇昭横浜国大名誉教授と三菱商事の亀崎副社長一行も加わり、議論が盛り上がる。三菱商事一行には三鷹寮で1年先輩、同室だった橋本良昭さんも加わり、40年入寮で政策投資銀行の副総裁から顧問に退いたばかりの大川さん、協和発酵から創薬ベンチャーに転じた久木野さん、41年入寮の国生弁護士と、五人の寮友が二重、三重にガードされた、緑濃い広大な大使公邸に集う。

### ◎キリマンジャロの雪・・・黄金のケニア復活道険し！

部族間に微妙な対立感情もあるケニアだが、アフリカ諸国が一斉に独立した黄金の60年代に、先陣を切って独立して以来、アフリカでは珍しく平和を保つ。当時日本以外の他のアジア諸国よりケニアの一人当たりGDPは大きかったが、その後経済は停滞、治安も悪化。キクユ族出身で独立の闘士、初代大統領ケニヤッタの後の、カレン族のモイ大統領の腐敗と暗黒の20年の間、援助や国庫の90パーセントが私されたと宮村大使。雨中の植樹後、日本から持参した文房具や玩具などのプレゼント交換も奪い合いとなる。も猿の縫ぐるみを手渡したのだが、四方八方から手が伸び、可哀相に猿の五体はバラバラになりそう。マレーシアの植樹ツアーでも一緒になった、住友電工OBの守屋さんは、自身が育った戦後日本の「ギブミー・チョコレート」と同じだというが、60年の差は大きい。上、上ならば、下、下なりかと道の険しさを感じる。

現在のキバキ第三代大統領はキクユ出身の経済学者で清廉、状況は改善に向かっていると、キクユのガイドは誇り、大使も認めるが、ガードマン付の広大な邸宅とブリキのバラック。交差点で信号待ちの車の間を器用に縫う物売り。サファリパークのゲートで民芸品を手に車のガラスを叩くマサイの女。貧富の格差は激しい。雨中の植樹会場でも音楽を鳴らしリズムカルに踊り出す陽気な人達だが、国会議員が連絡もなく来ない、時間に大幅に遅れるなど、勤勉さに疑問符もつく。

そんな“俗界”と隔絶され電気も自家発電の、キリマンジャロの麓のサファリロッジに、ヘミングウェイも滞在し、名作「キリマンジャロの雪」を著し、ライオンやキリンのハンティングを楽しんだという。東海岸のケニア第二の都市、モンバサから川を遡り、四駆を乗り継いで二週間かかって彼は辿り着いた。そこに5泊8日のケニアツアーでも二泊した。夕食後、消灯までのひと時、グラス片手にヘミングウェイが創作の疲れを癒したというバーのカウンターの、同じ場所に腰掛け、彼の名作「武器よさらば」や「誰がため鐘は鳴る」を鞆に、ベトナム反戦闘争に明け暮れた頃に想いを馳せる。文豪が酔い潰れ、衝立を立てて寝たいというテーブル席で仲間と語らい、キリマンジャロという名のカクテルを口に運ぶ。お祖父さんが彼の狩のお供をしたという若いマサイのバーテンダーが、壁に飾られた写真を指差し、お祖父さんのお蔭で私はここで働いてるんです、としみじみ語る。

### ◎翔んでケニア！・・・「国境なき楽団」ナイロビプロジェクト始動！

10月に「国境なき楽団」[www.gakudan.or.jp](http://www.gakudan.or.jp) 一行24名の一員としてマニラへ翔ぶ。楽団は「翔んでイスタンブール」をヒットさせた歌手の庄野真代さんが主宰するNPO法人で、日本で不要になった楽器を集め、途上国の恵まれない子供の施設にプレゼント、音楽を通じて子供達の健全な成長と日本との友好を図ろうとする。マニラでは在留邦人の「日比親善協会」とタイアップ、ストリートチルドレンを更生させ、学校に通わせる施設三箇所を協会の方々と訪問、笛や木琴、タンバリン、アコーディオン等の楽器をプレゼント。子供達と楽器を演奏したり、歌ったり、踊ったり、音痴のは冷や汗だったが、楽しく交流。庄野さんと、同行したゴスペル歌手のハルさんとのチャリティコンサートを協会主催で、宿泊先のマンダリンホテルで昼夜二回行い盛況。コンサートは住商、エプソン、ヤマハ等、現地の日本法人が沢山協賛してくれる。ケニアへ行き、宮村大使と植樹する話を庄野さんにすると、マニラでしたのと同じようなプロジェクトがケニアでもできるといいなどのこと。メールすると宮村大使も大賛成。

貧富の格差大で権力も腐敗、治安も悪く、エイズ蔓延のケニアでも、日本大使館の現地職員だった菊本照子さんが、ナイロビ郊外に「マトマイニ」（スワヒリ語で希望の意）という孤児院をつくり、19年間で85人の孤児を社会に巣立たせた。彼女は女性の自立のための授産施設も運営する（詳しくは宮村大使のケニア通信([www.tsuko40.com](http://www.tsuko40.com)) 2006年4月3日投稿分参照)。スラム街で幼稚園を営むなど貧しい人のために働く市橋神父やストリートチルドレンの音楽教室を開いているフューチャーキッズ・プロジェクトというNGO (<http://www.fk-p.com/>) の石川さんなど、素敵な日本人が頑張っている。菊本さんは日本に里帰り中で接触できなかったが、大使によれば、現地旅行会社幹部の湯本恵子さんが昵懇とのことで、今回のツアーの世話もする彼女に、国境なき楽団の資料を渡し連絡を頼む。市橋牧師とは植樹で一緒になり、協力を確認する。ナイロビの邦人は七百人いて、日本人会には四百五十名が参加。コンサート支える母体になれないか？大使公邸の夕食会では三菱商事副社長にも協力を要請、宮村大使も協力を約束してくれる。

来年は「空飛ぶ楽団」がケニアに翔べるかも知れない！夢膨らませて帰国。しばらくして、朝日新聞に久しぶりにケニアの記事が載る。ケニアにもエイズ患者が多いのだが、レトロ薬と栄養管理で直るエイズ患者も結構いて、岸田袈裟さんという日本人栄養学者が、ケニアで栄養管理を指導しているという。菊本さん、市橋さん、湯本さんだけでなく、素敵な日本人がケニアには沢山いるんだ！嬉しくなる。できれば、再度、歌手の庄野さん達と「国境なき楽団」のメンバーとして、プレゼントの楽器を沢山携え、ケニアの素敵な人達と会うことができたらと思う。

### ◎ラオス学校開校式に参加しませんか？

イオンでは2006年より「ラオス学校建設支援」3ヵ年計画をスタートしました。募金で、2007年3月には新しい学校が30校完成予定です。カンボジアで149校、ネパールで57校に続き、ラオスでは100校の建設が目標です。2007年3月27日、ラオス北部のルアンパバーン郊外に新しく出来上がった学校「イオン桜スクール」で開校式を行います。も開校式ツアーに参加して、ラオスの子どもたちと一緒に、新しい校舎で学べる喜びを分かち合おうと思います。一緒に子ども達の笑顔にふれてみませんか？

ルアンパバーンは、ラオスの古都で王宮や多くのパゴタがあり、町全体が世界遺産に指定されています。風景は日本の山村の様で、棚田も多く見られ、郊外には中国雲南省を水源とするメコン川が流れています。

尚、このツアーは、日本の同世代の子どもたちが開校式に参加し、親子で現地ラオスの子どもたちとの交流を深めていただきたいという思いから、小学校高学年又は、中学生(新4年生から中学3年生)のお子さんと一緒に参加いただける先着20組の親子の方に、お子さんの旅費の一部(5万円)をイオン1%クラブが補助いたします。開校式は3月27日(火)で、その前後で観光が楽しめるようになっています。

☆3月25日(日)～3月29日(木)、5日間コース

バンコク・ルアンパバーン5日間(成田発着) 155,000(お一人さま)

バンコク・ルアンパバーン5日間(関空発着) 149,000(お一人さま)

☆3月24日(土)～3月29日(木)、6日間コース

ホーチミン・ルアンパバーン6日間(成田発着) 153,000(お一人さま)

ホーチミン・ルアンパバーン6日間(関空発着) 152,000(お一人さま)

☆3月25日(日)～3月30日(金)、6日間コース

ビエンチャン・ルアンパバーン・ハノイ6日間(成田発着) 149,000(お一人さま)

詳細パンフレット・申し込みをご希望の方は、下記まで資料請求ください。

イオン1%クラブ 担当：西田、本村 TEL：043-212-6023 E-Mail：[lp@aeon.info](mailto:lp@aeon.info)

### ◎マッサージで血圧下がらず、飲むために飲む？

12月頭、三ヶ月振りに三楽病院で大腸がんの診察を受ける。一週間前に受けた血液検査の結果を見ながら、主治医の阿川先生と雑談？いつもと同じように、肝数値が若干overなのを除き異常なし。腫瘍マーカーも低く、正常値だ。次回二月の血液検査と、診察の予約を入れ、三月にCTを撮るということで、終わる。窓口で払った診察代が210円！3割が本人負担だから、0.3で割って700円が今日の診察代！一週間前の血液検査の時の本人の支払いが2千数百円。薬とか、検査や手術せぬと金にならないということだ！

大腸がんの手術から三年半以上、抗がん剤を飲むのを止めてから半年以上経つが、可能性の多い肝臓や肺、脳への転移の形跡はない。取りあえず癌は大丈夫そうだ。癌が大丈夫ということになって、高血圧が気になる。血圧計を買い、朝晩計ると、上が150～160、下が90～100、今の高血圧の定義からは立派な高血圧症だ。知り合いも結構降圧剤を飲んでいて、飲むのをすすめられる。ただ、ドンドン高血圧の定義の数値が下がり、それにつれ降圧剤の売り上げが増え、日本だけで年間1兆円近くになることに割り切れなさも感じる。降圧剤は一度飲むと止めるのは難しく、頻尿などの副作用もある。高齢になってからの高血圧は体の末端まで栄養や酸素を送るために必要な面もあり、無理に血圧を下げると、逆に栄養や酸素が体の末端にまで行渡らない結果、別の症状、とりわけ脳に栄養や酸素が不足し、痴呆症になる確率が高い、という学者もいる。

悩んでいると、肩こりを直すと血圧が下がるよというアドバイスを受ける。健康保険も利くという。取りあえず整骨院でマッサージを受けることにする。年内3、4回通って、駄目なら年明けから降圧剤を飲むことにする。12月1日の三鷹クラブの講演会で、杏林大心臓外科の須藤主任教授の話聞く。寮の同室で一年先輩だ。血管の強度、コレステロールと血圧の相関で動脈瘤破裂や脳出血を起こすようだが、コレステロールの数値は毎回の血液検査で問題ない。50%の確率で破裂する6センチまで動脈瘤が大きくなるのに数年かかるが、CT等の定期的な画像診断でも幸い動脈瘤はない。今直ぐの危険はなさそうだ。

整骨院では二回マッサージを受けるが、余り凝ってませんねという意外な結果で、マッサージ降圧作戦は不発。周りも結構飲んでるし、最悪の事態を考えると、予防的にでも飲むのが得策かと、弱気になる。問題は生活習慣なのだが、「(酒)飲むために(薬)飲む」という愚かさ、わかっている止められない愚かさ。仕方がない、三楽病院の生活習慣病診療所を訪ねる。ところが、高血圧だが取合えず食事で改善しましょうと、薬をくれない。混んでいるのでと、二月に再診察と栄養士との面談を予約する。(酒)飲むために(薬を)飲むと安直に考えていたのだが、それまで何もしないということになる。ただ、今直ぐ降圧剤を飲む程でもないということか？と、多少不安は和らぐ。ただ、血中のヘモグロビン値が高く、血液ドロドロ！水分を取る必要ありと言われる。高血圧の原因は意外とこの辺りか？それと output を増やすために毎日小平駅までの往復 36 分を歩くことにする。いつまで続くか？

### ◎「容器・包装・リサイクルのこれから」・・・第13回能代山本フォーラム21

今回の講師は東京大学環境安全研究センター長で、容器・包装・リサイクル協会副理事長も務める山本和夫教授(工学博士)にお願いしました。

同和鋳業の能代港利用の話が具体化し、故郷、能代・山本地区が環境産業都市へ確かな一歩を踏み出しています。故郷では既に廃プラスチックと火力発電の石炭灰からU字構を作る秋田エコプラッシュや、廃木材などを原料にするバイオマス発電など、環境産業がスタート。ただ、エコプラッシュも材料の廃プラスチックは多くを県外に頼っています。それは地元でのゴミの分別収集が進んでいないからでもあります。貴重な資源をリサイクルし、有効利用、環境産業都市として更なる発展を図るためには、ゴミ処理を含め市民の環境に対する意識の深化が必要です。

リサイクルの第一人者の山本教授に、ゴミ収集・処理を含め、「容器・包装・リサイクル」のこれからについて話してもらいます。

日 時 1月19日(金曜)午後2時半開場、3時開会、5時より懇親会

場 所 能代キャッスルホテル 平安閣

会 費 講演会無料 懇親会5千円

申込・連絡先 飯坂 誠悦(Tel/fax0185-54-8953 E-mail : [seiun-109@snow.ocn.ne.jp](mailto:seiun-109@snow.ocn.ne.jp))

### ◎“ウチの営業も手伝え！”・・・阪和興業の顧問に！

三鷹寮先輩の北修爾社長(S32年入寮)の命令？で、東証一部上場の、鉄鋼主体に一兆円以上を売り上げる商社、阪和興業の営業も手伝うことになりました。建築現場に鋼管杭や鉄骨、鉄筋を売り込む手伝いをします。これまで、電気や空調の設備を別にすれば、建築関係の営業は高橋カーテンウオールのコンクリート製外壁パネル(PCカーテンウオール)が主体で、オフィスやホテル等の高層ビルがターゲットでしたが、RC(鉄筋コンクリート)造のマンションや、低層の大型商業施設、スポーツ施設にまで営業範囲を広げ、頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

### ◎三鷹クラブ第70回定例懇談会・・・時代の先頭に立ち、世界の知の頂点をめざす

70回の節目を記念して、小宮山 宏 東京大学総長(昭和38年理科I類入学、工学部化学工学科卒業、大学院工学系研究科化学工学専門課程終了)をお招きし、「母校の今とこれから」についてお話していただくと共に、総長を囲み盛大に懇親会を行います。奮ってご参加下さい！

小宮山総長は「『時代の先頭に立ち、世界の頂点を目指す』という目標を掲げ、世界人類をリードする総合大学となることを約束し、この1年は着実に歩をすすめることができた。そして何より、夢をもって理想の大学像を大胆に意思表示していけば、大学を取り巻く環境も良い方向に変化していくということを実感しております。」と語り、一方、「大学は今、社会と向き合い、社会から評価される付加価値を生み出し続けることが求められています。そのためには、卒業生を中心として、東大に関わる人々がしっかりとしたつながりを持ち、世界の社会的課題を解決できるネットワークとなることが必要となるでしょう。」(第5回ホームカミングディ「ご挨拶」)と卒業生にエールを送ります。

1960年代後半、東西冷戦体制の下、西側の一員として、日本が経済の高度成長を遂げ、先進国の仲間入りを果たそうとしていた時に、「産学協同反対！」を旗印に、「東大解体！」を叫んだ者が、このような企画に参加、時代の移り変わりを感じます。20世紀末の冷戦体制の崩壊と経済のグローバル化、大競争時代の到来が、大学の意義と社会的役割の見直し、社会への更なる貢献を求め、大学は卒業生との結びつきの強化を求めています。ネットワークにつらなることで、母校の変革・発展と社会への貢献拡大に寄与することはOBとしても望むところかと思えます。

今回は冒頭30分ほど、総長に意のあるところをお聴かせいただき、その後は立食形式の懇談会として、グラス片手に談論風発といきたいものです。(文責 干場革治)

日時:平成19年2月8日(木) 18時30分~20時30分(中締)

場所:学生会館本館 203号室(千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931)

会費:5000円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み)

申込先:平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: [tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp](mailto:tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp)

### ◎今年も留学生に支援を!

「東京大学外国人留学生支援基金」のパンフレットを同封致します。かつて<sup>●</sup>が居住した三鷹の寮は東大三鷹国際学生宿舎に姿を変え、6百人の定員の三分の一、東大の留学生の一割弱が住んでいます。途上国の学生を中心に、経済的困難を抱えながら、勉学に励む留学生を応援し、「何かいいこと」していただければ幸甚です。

### ◎華屋与兵衛へ! 事務所で若者と久し振りに一杯

11月の週末、三鷹寮の若い諸君が秋祭を開くというので、一升瓶下げて行く。11時の打上げまで付合い、近くファミレスで寮委員を慰労。都合八人で閉店まで盛り上がる。つまみの他に寿司四人前二桶で足りず一桶追加。うな井やフカヒレうどん、すき焼きのリクエストも。旨い、旨いと、冷酒まで飲むので嬉しくなる。締めて3万5千円でコストパフォーマンスもいい。メンバーは委員長岡本和也(理I一年、岡崎)君の他、井上克彦(文I一年、東大寺)、濱野聖也(理I一年、浜田)、木原朴(理I一年、私立大分東明)、蜂谷広志(理I二年、北陸)、佐藤康人(理II、教養学部4年、小倉)、大原純子(理II二年、新潟)。11月末、同じメンバーに平賀代表他のOBも交え、おでんと寿司、ピザで<sup>●</sup>事務所で忘年会。

### ◎終わりに・・・今春の<sup>●</sup>メール当選は下二桁07番(封筒の表に記載)

田舎の兄が白神の奥山で採った蒨や、珍しい茸さもだし、なめこの缶詰を贈ります。再見!